

講義年月日	2002年11月13日(水)
講演者	筒井 利子氏(慶應義塾大学三田メディアセンター)
テーマ	Bibliographer育成の実際
講義内容	<p><b>1.はじめに</b>  慶應義塾大学三田メディアセンターでは、主題専門家を育成するため、研修会を行っている。和装本目録研修は、現在、カード形式で維持されている和漢<b>古典籍</b>の目録を、カード目録 冊子体目録の出版 OPACへのデータ反映、という流れで、より使いやすくするために行われた。研修は、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫の協力を仰ぎ、斯道文庫の教員が講師となって、1年間かけて実施された。</p> <p><b>2.研修内容</b>  研修者:3名。  公募制のため、現在の業務と関わりなく、本人の希望があれば応募可能。  研修期間 2000年7月21日～2001年6月末。  研修目標 和装本目録についての基礎的な知識を習得し、データベースでの入力基準のたたき台を作成する。  講師 斯道文庫 教員2名(国書・漢籍専門)。  研修場所 斯道文庫、貴重書室。  研修内容 国書、漢籍に関する書誌学的基本知識を習得し、実際に斯道文庫や貴重書室にある和装本の目録をとりながら、目録作成に必要な知識を身につける。全25回。  書誌学の概要/参考書の紹介、US MARC にそった目録の説明、装丁の種類、書籍の形状に関する部分名称(1)～(2)。  書籍の内容に関する種類と用語、写本の内容に関する種類と用語、漢籍・文献学概要、版本学、唐本と和刻本/版式、各時代の特徴、漢籍の蔵書史、目録シートの記入方法(1)～(2)。  目録実習(1)～(11)。</p> <p><b>3.研修後の展開</b>  (1)和装本研修(館内)  研修生自身が講師となり、他の図書館員に講習を行い、古典籍の扱い方、目録のと方、書誌学入門などの基礎知識を共有させる。2001年7月～12月にかけて、3名に実施。  (2)古典籍目録作成準備委員会の発足  ・目的 現行のカード目録をデータ化し、冊子体目録を出版、さらにOPACへのデータ反映を目指す。  ・メンバー 教員3名(国書1名、漢籍2名) 職員8名。  ・活動内容 冊子体目録作成準備、目録データシートの書式作成、目録作成用マニュアルの整備、分類表作成、目録データ入力作業。  和書と漢籍、それぞれのワーキンググループに分かれて、目録作成を行う</p>
用語	・ <b>古典籍</b> :古書。古書の中でも、やや内容形式ともに尊重の意を含む語義がある。
感想	和装本はそれ自身が研究対象ともなっており、精密な目録作成にはかなりの知識と熟練を要する。書誌学を知り、目録をとれる図書館員(Bibliographer)を育成することは、和装本を多く所蔵する図書館にとって、大切なことである。慶應義塾大学三田メディアセンターは、自館でBibliographerを育成するだけの力があつたが、中小規模の図書館においての研修・育成方法は、今後の課題となろう
配付物	「古典籍の担当者育成を考える:慶應義塾図書館における「和装本研修」の試みの中から」 慶應義塾図書館和漢古書目録作成委員会の活動について」 和装本講習会メモ」
備考	加藤好郎「慶應義塾図書館が21世紀に目指すもの-専門職としての図書館員-」 『大学図書館研究』No.60、2001.2、p.24-28.